

ニューズレター雪氷北信越

No. 42 平成7年3月10日
(社) 日本雪氷学会北信越支部発行

目次

講習会・学習会・技術部会・観察会・研究会報告／見学会・学習会・技術部
会の案内／支部賞／機関誌／その他／第8回総会、研究・製品発表会案内

講習会

富山地区「積雪観測講習会」の報告

富山地区では、積雪観測講習会を下記の日程で実施した。

期 日：平成7年1月22日（日）10:00～15:00

場 所：国立立山少年自然の家（富山県立山町芦峯寺）

講 師：川田邦夫（富山大学）、飯田 肇（黒部市吉田科学館）

参加者：5名

内 容：参加人数が少なかったため室内での講習は簡単に終わらせ、
野外実習に重点を置いた。野外実習では積雪断面観測（層
位、密度、全水量、硬度、雪温等）を実施したが、積雪深
が150cm近くあり、また、前夜の降雪で結晶型を残した新
雪もみられ、各種雪質の観測ができた。また、一人一人が
観測を体験することができ、充実した講習会となった。

近年、積雪断面観測講習会への参加者がたいへん少なく
なっている。次回に向けて、講習内容として何が望まれて
いるのか、対象はどのへんに置いたらよいのか等の検討の
必要が痛感された。

（飯田幹事 記）

講習会

平成6年度 新潟・長野地区講習会の報告

日 時：平成7年2月4日（土）9:30～16:50

会 場：科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所（長岡市栖吉町前山187-16）

講習題目：積雪調査法

講習内容：積雪の断面観測と雪の含水率の測定

長岡雪氷防災実験研究所の研究内容・実験施設の紹介

講 師：遠藤八十一氏（農水省森林総研）、和泉薫氏（新潟大学災害研）
納口恭明氏・五十嵐高志氏（長岡雪氷防災研）、佐藤和秀氏（
長岡高専）

参加者：13名（会員 3名、学生 7名、一般 3名）

当日は近年になく、平年に近い積雪（125cm）と終日晴天に恵まれ、
講師諸先生の献身的で懇切丁寧な指導の内に受講者は集中して実習する
ことができました。今回は増築・新装成った長岡雪氷防災実験研究所を
会場にお借りすることができ、大変効率的・効果的な講習会を実施する
ことができました。中村勉所長さんに改めて感謝申し上げます。また、
休日にもかかわらず献身的にご支援下さいました小林俊市幹事に深く感
謝いたします。

（田村幹事 記）

学習会

新潟地区学習会の報告

日時：平成7年2月10日（金）14:30～16:50

場所：長岡技術科学大学機械系会議室

主催：（社）日本雪氷学会北信越支部、長岡技術科学大学積雪会

話題：

1. 日中雪氷学術交流報告

(1) 中国科学院の組織の概要

長岡技術科学大学 梅村晃由 教授

平成6年8月20日から同月29日の期間で実施された雪氷学術交流の目的、構成、訪問地、日程が報告された後、中国科学院の規模の大きい組織とその概要について、解説がなされた。

(2) 中国の道路建設と維持管理状況

関越ロードメンテナンス（株） 阿部 勉 専務取締役

豊富な経験と鋭い感覚に裏打ちされた観察で、北京、蘭州、ウルムチ、トルファンに至る広大な大陸における、道路の構造、建設事情、維持管理から交通ルールに至るまで、詳細な解説がなされた。

2. ラジコンヘリコプターの実演とその解説

ラジコンヘリインストラクター 山口早苗氏（小千谷市）

農業用に開発されたラジコンヘリコプターの構造、性能、用途が解説された後、駐車場を発着場とし、無線操縦の実演が行われた。荷重20kgまでの積載が可能で、積雪、雪崩などの観測で雪氷分野への利用が拓かれるものと期待される。

参加者：24名

（田村幹事 記）

学習会

石川地区学習会の報告

石川地区では、金沢大学工学部で、2月13日（月）15時30分～17時に「雪氷利用における氷文化圏と雪文化圏」と題した学習会を開きました。講師の竹井巖先生（北陸大学）は、加賀前田藩における氷室の歴史や日本海側の雪利用文化圏と太平洋側の氷利用文化圏の対比、更に古代の近畿地方では既に氷室文化が定着していたことなどを資料とともに紹介されました。聴衆は、金沢で今日も続いている氷室饅頭の風習から一時のタイムスリップを楽しむことができました。尚、参加者は10名でした。

（村本幹事 記）

学習会・技術部会

新潟地区学習会「カナダにおける雪崩対策事情」及び雪崩の力学研究技術部会の報告

平成7年3月3日（金）14:45～16:45に長岡技術科学大学において、上記学習会及び技術部会が開催された。

まず、学習会では、一昨年9月から昨年5月までブリティッシュ・コロンビア大学で雪崩の研究に従事してこられた新潟大学の和泉薫さんにカナダにおける雪崩対策並びに雪崩講習会の様子などについて講演していただいた。カナダでは標高差1000m以上の大規模な雪崩が多く、その対策は大砲やダイナマイトにより危険な雪を人工的に落とす方法が主であること、雪崩対策施設としては誘導堤やアースマウンドが多く、スノーシェドは全国で9基しか設置されていないこと（木製のスノーシェドもある）など興味あるお話を聞かせていただいた。参加者は14名、気さくな雰囲気のもと質疑応答が行われた。

なお、学習会終了後「雪崩の力学研究技術部会」が開かれ、今後の方針が討議された。

（遠藤幹事長 記）

観察会

雪氷観察会の報告

先号でお知らせした標記観察会（主催：長岡市立科学博物館、協力：長岡雪氷防災実験研究所・（社）日本雪氷学会北信越支部）を2月19日（日）に長岡雪氷防災実験研究所にて実施しました。

親子連れなど参加者28名は、まず雪と氷について基礎的な説明を受けた後、気象観測レーダーで雪雲がやってくる様子を観測したり、低温室に入って-50℃の気温を体験したりしました。前日から入れておいたバナナで角材に釘を打ち付けて見せたところ、どの参加者もたいへん驚いた様子でした。

その後、レーダーで観測した雪雲が降らせる雪の中、1mほど積った雪を掘って積雪断面を観察し、密度測定の実習をしました。さらに、雪の中に埋められたビーコンを捜すという雪崩遭難救助の訓練を行ったり、雪玉輸送装置を見学したりして、楽しみながら雪と氷について学びました。

なお、来年度も2月中旬に実施する予定です。

（長岡市立科学博物館 加藤正明 記）

研究会

雪対策研究会開かれる

平成7年2月21日（火）に新潟市において、長岡雪氷防災実験研究所主催の第19回雪氷防災研究会・第8回雪氷防災研究連絡会、及び新潟県主催の第8回新潟県雪対策研究会が、合同で雪対策研究会と銘打って開催されました。

午前の部では、特別講師による講演が2課題もたれ、午後の部では、21機関の方々から、それぞれの機関における研究の概要が紹介され、それをもとに情報交換が行われました。なお、参加者数は113名でした。

当日配布した雪対策研究会資料集をご希望の方は、下記まで御連絡下さい。

記

〒940 長岡市栖吉町前山187-16

長岡雪氷防災実験研究所 第3研究室 納口恭明

TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

（納口幹事 記）

学習会・技術部会

「新潟地区学習会」及び

「雪崩の力学研究技術部会」のお知らせ

話題：「ガゼックス実験をとおして見た雪崩の力学」

講師：早川典生（長岡技術科学大学）、上石 勲（㈱アルゴス）

日時：平成7年4月28日（金）10:00～10:30 雪崩の力学研究技術部会
10:30～12:00 新潟地区学習会

場所：長岡技術科学大学機械建設棟8階会議室

学習会の内容：新潟県新井市のARAスキー場に設置されている、雪崩誘発装置ガゼックスは爆発物を用いない方法として注目されている。その性能、雪崩発生仕組みについて、長岡技術科学大学、㈱アルゴスは富山大学、新井リゾート㈱とともに、数年間研究を続けてきた。その成果の中から、ガゼックスの効用、雪崩機構について報告する。

「雪形」ウォッチングのお知らせ

5月、新緑の頃に、北アルプスの山々に描き出される残雪絵、しる馬・武田菱・獅子・種時き爺さん・蝶などの雪形と雪形研究家・故田淵行男さんの記念館を訪ねる見学会、並びに雪形に関する学習会を一緒にした1泊2日のバス旅行を企画しています。会費等詳細は未定ですが、参加希望の方は下記窓口まで、葉書、FAX、または電話にて御連絡ください。なお、定員は先着20名とさせていただきます。

記

雪形学習会

日時：平成7年5月13日（土）15時頃（現地集合）

場所：新潟県妙高高原町関川（池の平） KKR「白樺荘」（予定）

宿泊費：未定

雪形見学会

日時：平成7年5月14日（日）9-17時頃まで

場所：北アルプス山麓（JR大糸線沿線、松本～糸魚川間）

田淵行男記念館・大町山岳博物館

ルート：「白樺荘」～長野～松本～糸魚川～直江津（解散）

参加費：未定

窓口：遠藤八十一

森林総合研究所 十日町試験地

〒948 新潟県十日町市辰乙614

TEL & FAX 0257-52-2360

納口恭明

長岡雪氷防災実験研究所

〒940 新潟県長岡市栖吉町前山187-16

TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

話題

「もし、豪雪時に大地震が発生したら?！」

先の阪神大震災のあと、雪国に住む誰しもが不安を抱いたに違いない。ここでは、過去冬期に発生した地震として3つの例を挙げてみたい。いくらかでも参考になれば幸いである。

1666年2月1日 越後西部。M6.4。直下型。
積雪14～15尺。高田城破損。侍屋敷700余つぶれる。
夜火災。死者約1500人。

1961年2月2日 長岡市西部。M5.2。直下型。
積雪約2m。被害は直径2kmの範囲に集中。
死者5人、住家全壊220戸、半壊465戸。

1971年2月26日 新潟県南西部。M5.5。
負傷者13人。雪崩数カ所におきる。
小規模の地割れや崖くずれがあった。

* 出典：理科年表ほか。

（小林幹事 記）

支部賞

1995年度支部賞授賞候補者推薦の申出について

1995年度支部賞授賞候補者の推薦には、支部の理事および評議員が、下記の項目を記載して4月10日までに書類を支部事務局へ提出することとなっております。

候補者にお心当たりの方は、期限に間に合うようにお近くの理事あるいは評議員へお申し出下さい。

記

- (1) 雪氷技術賞、大沼賞、雪氷功労賞の区別。
- (2) 推薦者の氏名、所属、職名。
- (3) 授賞候補者の氏名(または団体名)、所属、職名。
- (4) 推薦理由書(〇〇〇の功績などの授賞表題を掲げ、800字ほどにまとめたもの)。
- (5) 上記の理由書を証明する関係書類があれば添付する。

機関誌

『雪氷北信越14号』発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会では、平成7年5月27日に『雪氷北信越14号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越6号』最終頁を御参照の上、御連絡下さい。

1. 締切：平成7年5月6日(土)必着
2. 字数：3000字程度(用紙は自由)
3. 問合せ：〒940 新潟県長岡市栖吉町前山187-16
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市 (TEL.0258-35-7522)

その他

『ニューズレター雪氷北信越』についてのお願い

(社)日本雪氷学会北信越支部では、支部会員への事業の案内や報告のために、毎奇数月10日前後にニューズレターを発行しております。原稿を、下記の書式(できるだけワープロ原稿)で毎奇数月5日までに事務局にお送り下さい。

*書式 A4
左右マージン : 25mm
1行文字数 : 約32文字
行間 : 約4.5mm
行数 : 制限は設けないが手短に

なお、MS-DOSのテキストファイルの形式で保存したフロッピーでの投稿も歓迎いたします。

ニューズレターに関するお問い合わせは
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市

TEL.0258-35-7522
FAX.0258-35-0020

までお願いします。

総 会

総 会 & 研 究 ・ 製 品 発 表 会

第 8 回 北 信 越 支 部 総 会 お よ び 研 究 発 表 会 ・ 製 品 発 表 検 討 会 の お 知 ら せ

日 時：平成 7 年 5 月 27 日（土）12：45～17：30

場 所：福井県民会館 7 階大会議室及び 3 階 305 号室

（JR 福井駅より徒歩 10 分）

〒910 福井市大手 3 丁目 11-17 （TEL. 0776-23-8400）

プログラム：12:45～13:30 総会

13:45～17:30 研究発表会・製品発表検討会

17:30～懇親会（福井県民会館 3 階 306 号室）

参加費：無料（ただし、懇親会参加費は 4000 円）

予稿集：発表予稿集掲載の『雪氷北信越 14 号』を当日配布します。

（日本雪氷学会会員：無料、非会員：1000 円）

参加申込要領

参加申し込み：5 月 6 日（土）必着 → 総会・発表会・懇親会

発表申し込み：4 月 15 日（土）必着 （執筆要領は発表申し込みを

予稿原稿提出：5 月 6 日（土）必着 された方に送付。1 頁）

送付・問い合わせ先：長岡雪氷防災実験研究所

納口恭明または小林俊市

〒940 長岡市栖吉町前山 187-16

TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

参加申込用紙（5 月 6 日必着）

氏 名	所 属	連 絡 先
	〒	TEL. FAX.
総 会	発 表 会	懇 親 会
参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加

発表申込用紙（4 月 1 5 日必着）

氏名（所属略記，発表者に○）	題 目
連絡先 〒	TEL. FAX.
発表種別（どちらかに○）	1. 研究発表会 2. 製品発表検討会